

## オーストラリアとアメリカの出国審査の違いについて

舟生 華乃(中学2年生)

私は、今回の派遣でオーストラリアを出国する際に、出国審査に引っかかってしまい、10-20分ほどかけて手荷物の中身を検査されてしまいました。その経験を元に出国審査の厳しさを2か国に分けて比較したいと思います。

### ・オーストラリアの場合

上着や携帯電話などの電子機器をX線検査に通しました。私自身もドラえもんに出てくる「どこでもドア」のようなゲートを通りチェックされました。でも、アメリカのように靴を脱ぐ必要はありませんでした。使用されている機械は、アメリカの出国審査で使われていたものに比べ古いタイプの物に見えました。初めに書いたとおり、私は出国審査に引っかかるような物をリュックに入れていなかったのにもかかわらず、何度もX線検査にひっかかってしまいました。もしかしたら、使われていた機械が古かったからかもしれません。そのためだからなのか、私のバックを開けて中身を調べた空港職員が、何度も私に「ただ中身を確認するだけだから、大丈夫だから心配しないでね。」と優しく話しかけてくれました。ですが、空港職員は、男女ともにスポーツ選手のような体格のよい方ばかりで、雰囲気はアメリカ以上に緊張感が漂うものでした。

### ・アメリカの場合(ワシントン州・シアトル)

出国する時は、ジャケット等上着を脱ぐのはもちろんのこと靴まで脱がなくてははいけませんでした。そして、ボディソーターと金属探知機を通ります。また、青い手袋をつけた空港職員は、金属反応が出た部分を触り調べます。係員の外見は、みんな体格が良くとても厳しそうな雰囲気を出していました。

### ・アメリカの場合(ハワイ州・ホノルル)

シアトルと同様に靴や上着を脱ぎ、バックの中身もX線で検査されるのですが、空港職員がランダムに出国予定者へ黄色いカードを渡し、渡された人は靴やジャケットはもちろん、X線検査や手荷物検査もなくスルーできます。私はラッキーなことに、そのカードを空港職員から渡され長蛇の列もすんなり通ることができました。ただ、検査の雰囲気は、シアトルと同様に厳しかったように思います。

私は、入国審査も含めオーストラリアの検査の厳しさを改めて強く感じました。私は、幼い時、アメリカの出入国検査の際にお菓子のことで小さな嘘をついて通ってしまったことがあります。でも、オーストラリアではそのような嘘も簡単に見抜いてしまうような鋭い眼光の空港職員が多いと感じました。私は、そのような厳しい空港職員のおかげで、オーストラリアの生態系が崩れることがないのだと感じました。



Photo by Shutterstock